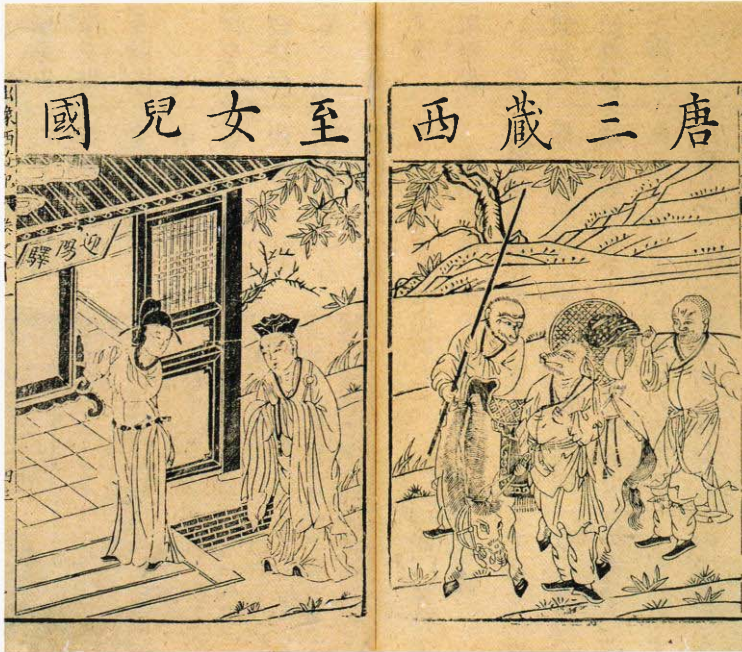


やまとの名品

天理図書館



さい ゆう き
西遊記

20卷20冊 万曆(1573~1620)頃刊
縦25.5cm 横16cm

中国明代の長編口語小説。唐僧侶・三蔵法師が、お馴染みの孫悟空・猪八戒・沙悟浄を供に従え、インドから仏典を持ち帰る道中を描く物語。

道中遭遇する様々な妖怪を、千変万化の術で退治する痛快なストーリーは、中国ではもとより日本でも人気を博し、今なおテレビドラマなどに登場する。

西遊記は、玄奘三蔵の取経旅行（六二九～六四五）という史実を記した地誌『大唐西域記』を源流とし、中国各地の伝説などと結合し作り上げられた唐三蔵伝説に始まる。

その後千年近くの間、様々な語り物や演劇として広く民間に

伝承されてい

たが、明代の万暦年間に、

金陵（現在の

南京）の名書

店・世徳堂が、

現在にも語り

継がれている

百回本の小説

として完成させ出版した。

掲出本は、その世徳堂本で、

西遊記の現存最古の完成品。京

都・西明寺（平等心王院）の旧

蔵。取経をテーマにした内容で

あることからか、多くの寺院が

所蔵していたことが知られる。

因みに、現在日本では、沙悟

浄を河童かっぱと思っている人が多い

新刻出像官板大宇西遊記月字表之一

華陽洞天主人校

金陵世徳堂梓行

第一回

聖教育孳源流出

心性修持持大道生

詩曰

混沌未分天地亂 茫、渺、無人見 自從盤古破鴻濛

開闢從茲浩蕩辨 覆載群生仰至仁 發明萬物皆成善

欲知造化會元功 須看西遊釋厄行

蓋聞天地之數有十二萬九千六百歲為一元持一元分為十二

會乃子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥之十二支也每會該一

萬八百歲且就一日而論子時陽氣而丑則雞鳴寅不通光

が、原作では僧侶の風貌をした

人（前ページ写真の右端の人物）

である。三蔵法師に仕えるまで

は、水辺で人を襲っていた妖怪

であったことから、読者がイメ

ージしやすいように河童にした

のであろう。

（天理図書館 森山恭二）